

芸閣

～図書館だより～

第9号
2019年1月
桐蔭図書館発行

芸閣...「うんかく」と読みます。
書庫、書斎という意味です。
(「芸」は書籍に挿む虫除けの香草)

だ い かん 大 寒

かん
「寒の入り」「大寒」などという言葉を知りますが、何のことか知っていますか？ これらの言葉は にじゅうしせき 二十四節気からきています。二十四節気は、昔の暦で1年を24等分し、24の季節に分けたものです。その23番目が しょうかん 「小寒」で寒の入り。冬の本格的な訪れとなります。今年の小寒は1月6日でした。24番目が「大寒」で1月20日でした。今が一年で最も寒さが厳しい時期になりますね。

かんのうち 「寒の内（寒中）」 かんあ 「寒明け」という言葉もあります。寒の内は、小寒から節分までの30日間のことを指します。「寒明け」というのは、冬の終わりのことで、二十四節気の1番目「立春」——2月4日。その名の通り、春が来たことを告げる日。暦のうえでは春でも、2月はまだまだ寒いですがね。

図書館講座

大松先生と読む 『山椒魚』

12月19日

12月19日、桐蔭高校国語科教諭である大松先生を招き、図書館講座として『山椒魚』の読書会を開催しました。『山椒魚』は井伏鱒二さんが書かれた代表的な短編小説です。読書会には55人もの人が集まり、4～5人の班を12個作ってそのなかで『山椒魚』を読んだ感想を話し合いました。『山椒魚』はとても寓話的な物語で読んだ人によって解釈の違いができるので、他の人と意見を交流しているとどんどん新しい話の見え方が出てきてとても楽しかったです。また自分の好きな作品や作家さんで読書会を開いても面白いかな、と思いました。

2G 樋口

(裏面に新しく入った本の紹介を載せています)

小説

ビブリオバトル和歌山大会
(高校生の部)のチャンプ本

『りぽぐら!』西尾維新著 講談社

『ノワール 硝子の太陽』
菅田哲也著 中央公論新社

『ケーキ王子の名推理 3』七月隆文著 新潮社

『彼女が好きなものはホモであって僕ではない』
浅原ナオト著 KADOKAWA

『カーネーション』いとうみく著 くもん出版

『君の嘘と、やさしい死神』青谷真未著 ポプラ社

『羊たちの沈黙』トマス・ハリス著 新潮社



社会科学

『居場所がほしい——不登校生だったボクの今』
浅見直輝著 岩波書店

『学年ビリから東大へ進み、作家になった私の
勉強法』竹内薫著 PHP研究所

『大学の学科図鑑』
石渡氏嶺司著 SBクリエイティブ

『〈超・多国籍学校〉は今日もにぎやか』
菊池聡著 岩波書店

『保育の自由』近藤幹生著 岩波書店

情報

『人工知能の「最適解」と人間の選択』
NHKスペシャル取材班著 NHK出版

『人工知能を超える人間の強みとは』
奈良潤著 技術評論社

『はじめての人工知能 Excelで体験しながら
学ぶAI』浅井登著 翔泳社

言語

『「感じ」が伝わるふしぎな言葉 ～擬音語・
擬態語って何だろう』佐藤有紀著 少年写真新聞社

自然科学

『からだの免疫キャラクター図鑑』
岡田晴恵監修 日本図書センター

『食物アレルギーキャラクター図鑑』
赤沢晃監修 日本図書センター

『空飛ぶ救急救命室ドクターヘリの秘密』
和氣晃司著 彩流社

『やさしくわかる子どもの起立性調節障害』
田中大介著 洋泉社

『組合せ数学』ロビン・ウィルソン著編 岩波書店



人生訓

『中学時代にガンばれる40の言葉』
中谷彰宏著 PHP研究所

『心に折り合いをつけてうまいことやる習慣』
中村恒子著 すばる舎

産業

『知ってる? 郵便のおもしろい歴史』
郵政博物館編著 少年写真新聞社